

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570907816	
法人名	医療法人寿光会	
事業所名	ぐるーぷほーむ「せきがみ」	
所在地	秋田県鹿角市十和田大湯字前田29番地	
自己評価作成日	令和元年09月07日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1
訪問調査日	令和1年10月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同法人の医療機関や老人保健施設との連携体制が整備されており、入居者様が安心できる環境となっております。職員は入居者様が安心してその人らしく暮らせるよう、目標と位置づけ、自分たちで理念を作成し、実践できるよう努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所で提供する食事は、事業所の畑で採れた物も含め季節の食材を取り入れ、1品でも多くのおかずを食べてもらいたいと職員が献立を考え、彩りと食べやすさに配慮された手作りとなっている。外出したいという入居者の要望があれば個別に対応し、家族の協力をもらいつつ自宅に宿泊したり、10月に開催された駅伝大会の応援に出向いたりしている。  
 前回の評価結果を踏まえ目標としていた介護技術の向上について、認知症介護実践者研修に全ての職員を派遣することを目指し取り組んでいる。また、事業所内での研修も担当職員を決め、虐待防止、感染症対策等テーマを決め実施している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時からの理念を元に自分達の目標と位置付け作成した理念「やさしさに包まれて楽しく過ごします」実践につなげている。	法人作成の運営理念を柱に常日頃から目付き具体的な実践ができるように職員の話し合いによる「自分たちの理念」を作成し、この理念をケアの根本に据え実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事や避難訓練に参加して頂いている。ご近所から、野菜や果物を頂いている。またインターシップの受け入れを行っている。	自治会が実施するクリーンアップに参加したり、避難訓練の際には住民に玄関からの誘導をお願いしたり、地域とのつながりを持つよう心掛けている。 昨年から、入居者、家族、地域住民と、きりたんぼを作り一緒に食べる「たんぼ会」を開催したところ好評で、今年も11月に実施する予定とのこと。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	運営推進会議に地域の方にも参加して頂いている。又ホームの見学、相談はいつでも対応できるよう心掛けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者状況、行事の報告を行っている。その都度頂いた意見は、職員全員で共有し、サービス向上に活かしている。	入居者の状況や行事等の報告を行い、参加者間で状況を共有している。参加者から頂いた助言等は職員全員に周知、共有し、運営等に取り入れている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂いている。	鹿角市や近隣で開催される研修の情報や介護保険の改正、各種手続き方法などを提供してもらったり、行政の担当者が来所するなど、行き来があり協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を行い理解するよう努めている。入居者様の安全に考慮し、職員が手薄になる時は施錠することがある。施錠について都度話し合いを行い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関から出ると直ぐに道路であり、通院等職員の手が不足した際には、玄関の施錠をする場合がある。研修担当の職員が、虐待防止の研修を実施したり、同法人の他の事業所とともに、身体的拘束を防止するための会議を定期的に開催し情報を共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修参加、又ホーム内職員研修の一つとして行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用されている入居者様を通じて少しずつ理解できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が都度説明している。不安や疑問をよくお聞きし説明させて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にご家族にも参加して頂き意見を頂いている。又面会時意見や要望を伺っている。	事業所から1か月に一度入居者の様子を記載した手紙を郵送し、お互いに入居者の状態を共有しており、家族が面会等で来所した際には、話に耳を傾け意見や要望をくみ取るよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの要望については管理者が法人本部へ報告している。昨年はエアコン、今年はウッドデッキ等実現できている。	職員が、入居者の気軽に畑に出たいという気持ちを叶えるため、吐き出し窓にウッドデッキの設置を要望したところ法人が実現した。そのため、畑の雑草取りや野菜の収穫など、入居者が活動する機会が増えたとのこと。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員の努力を把握している。本部へ伝えるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内、外の研修に参加できるよう努めている。研修報告会、回覧を行い職員全員で共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム連絡協議会で情報交換できている。又職員全員が参加できる研修もあり交流できている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談やホームを見学して頂いた際不安ごとや要望を伺い安心できる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族がこれまで頑張っておられたことを受け止め、ご意見や要望を伺い協力しあえる関係づくりに努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族という思いで対応させて頂いている。色々なことを教えて頂き、家事など出来ることを手伝って頂いている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	情報交換を密にし、信頼して頂けるよう努めている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	古い友人の面会や馴染みの美容院に行く等出来る限り本人の希望に沿った支援を行っている。	家族や友人からの電話を取り次いだり、友人に手紙やハガキを出したいという気持ちをくみ取り、居室に椅子とテーブルを準備している。自宅への外泊希望には、家族の協力に対応している。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々を尊重しつつ孤立しないようお互い関わり合えるよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も安心して生活できるよう相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃会話しながら聞き取り、本人の思いに沿えるよう努めている。	入居者との会話から、外出したい気持ち、自宅に帰りたい気持ちを聞き取り、叶えるよう取り組んでいる。言葉で表現できない場合は、入居者本人が興味を持ってできることを探し出し、提供することとしている。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報、ご家族からの情報等を把握し理解するよう努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや最近の情報について連絡簿から把握し一人一人の本日の状態に反映したケアとなるよう努めている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当を決め、意見を出し合い、入居者様ご家族より意見を伺い、介護計画を作成している。	3ヶ月毎のモニタリング時に、2～3名ほどの居室担当職員が合議により日常生活の状況から、計画を見直している。サービス担当者会議には、入居者本人が出席し、計画には本人の要望がそのままの言葉で記載され、その実現に取り組まれている。出来上がった計画は、回覧され職員間で周知されている。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別経過を記入し、ミーティング等で意見を出し、介護計画の見直しに活かしている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加したり、全国的な駅伝の応援をしたりと楽しむ機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は入居者様、ご家族の希望を尊重している。かかりつけ医、薬局の変更の際は相談し決めている。	法人内の医院から週一回来所し、全ての入居者の健康状態を確認している。歯科を含めかかりつけ医を受診することが基本となっており、遠方への通院は家族の協力を得ながら行っている。家族が通院付添の場合は、日常の様子をメモ書きにし、血圧手帳を持たせるなどして、情報の共有をしている。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携の看護師に状態の説明、報告をしている。又受診の相談、助言を頂いている。担当看護師直通の電話もあり気軽に相談できる。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院関係者との情報交換に努めている。緊急時に対応できるよう総合病院と契約している。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、ケアプラン説明時行っている。法人内に病院、老健がある為対応がスムーズに出来ている。	看取りは行わない方針であることを書面等により説明している。入居者の身体状況を日頃から観察し、ADLの慢性的な低下等が見受けられれば、同法人の老人保健施設等サービス変更を含め調整することとしている。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署による救命講習に全職員が参加している。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いのもと、地域の方にもご協力頂き年2回避難訓練を行っている。水害の避難訓練も年1回行っている。	非常災害時の備蓄食品は、保管庫や普段は入居者が休むベンチの下にある収納スペースに入れて保管し、いつでも取り出せるようになっている。水害避難計画書を行政のアドバイスにより作成し、事業所に備えてあり、避難所へ全員が避難する訓練を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応を心掛けているがきつい言葉や配慮に欠けた言葉が出てしまうことがある。	言葉かけの方法や注意点について、管理者が月一回のミーティング時に説明したり、注意を促している。職員同士でも、お互いに言い合える関係が築かれ、言葉かけを中心に普段の対応を振り返り、話し合う機会がある。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	衣服やおやつなどの選択など簡単なものではあるが自己決定を促している。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを大切に出来るだけ希望に沿った対応をしている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしさを心掛けている。食事のエプロン使用はできるだけ服と一体化した職員手作りのものを使用している。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜切り、簡単な味付け等行って頂いたり、食器拭きテーブル拭き等を楽しみにして手伝えて頂いている。	訪問した日には、野菜を切るなど下ごしらえを手伝う入居者が目に写った。食事は、入居者と一緒に職員も同じものを食べ楽しむ様子が伺えた。品数や事業所の畑で採れた物も含め季節の食材を使うことを心掛け、手作りの食事の提供に取り組んでいる。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	麺が食べられない方には、ご飯を提供するなど個々に合わせ対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声がけ、誘導し毎食後に行っている。本人の力に応じて促し方も工夫している。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時間パターンを共有し支援している。その時の状況に応じ布パンツ、リハビリパンツに替えたり、パットの大きさを変えるなどの工夫し対応している。	各棟ごとに排泄状況の他、食事の摂取量、入浴状況等を記録するノートが備え付けられ、職員間で情報を共有し、入居者をトイレに誘導したり、見守ったりすることに活かしている。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬だけに頼らず朝食はヨーグルトを提供し、昼には手作りの寒天を提供するなど工夫している。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様の希望する時間帯での入浴はできていない。湯舟の温度や入浴時間の長さなど入居者様の希望に沿った支援を行っている。	週2回の入浴を基本としながら、汗ばむ季節にはシャワー浴を、水虫の治療のため足浴を、と入居者の状態に即して対応している。入浴する際には、音楽を流したり、時々親しい入居者同士が一緒に入るなど、楽しみになるよう配慮している。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室内の温度調節や掛物などに気を配り気持ちよく眠れるよう支援を行っている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬についてわからないことはかかりつけ医、薬局、医療連携の看護師に相談し理解するようにしている。状態の変化は受診時報告している。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ドライブ、買い物、レクリエーション等楽しみ事を提供している。個々にできる仕事(草取り、食事の片づけ)を張り合いにして下さる。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	中庭、近所への散歩、買い物、ドライブ等出来る限り支援している。	行事担当の職員が、2ヶ月に一回の割合で外出を計画し、花見ドライブ、お祭り見物、外食、道の駅での足湯等へ出かけている。10月には駅伝大会が開催され、近くの道路を走る選手を応援するため沿道へ出かけている。散歩を日課とする入居者には、畑がある中庭や広い駐車場内を歩いてもらうなど、普段から外気に触れる機会が設けられている。	
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金についてはご家族が管理している。必要な時は立替で購入している。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があったときは、電話をしたり、手紙を出したりしている。年賀状を入居者様からご家族へ毎年出している。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事の写真や職員手作りの絵を飾ったりと工夫している。クーラーをつけて頂き快適に過ごして頂いている。中庭に出やすいようにウッドデッキを作り畑のものを見たり収穫したり季節を感じて頂いている。	職員が作る季節ごとの絵を飾ったり、外出した際の様子をおさめた写真を掲示し、事業所全体で四季を感じてもらえるよう配慮している。夜間には、ポータブルトイレを使用する入居者がいるが、日中は視界に入らないよう遮ったり、不快な臭いが無いよう掃除したり、居室に芳香剤を置くなどして対応している。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファ、廊下にはベンチ、椅子、テーブルを置きくつろげる空間づくりを心掛けている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の使い慣れた馴染みの家具などを置き落着いた生活が送れるよう配慮している。仏壇や位牌を持って来られる方もいる。	自宅から持ち込んだ大きな仏壇があったり、テレビ観賞用に椅子が設えてあったり、入居者ごとのこれまでの暮らしに合せて、居室を整えている。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には手作りの名札、トイレなどの表示は入居者様の目線に合わせるなどの工夫をしている。ホーム内には手すりがあり安全に配慮している。		